

研究開発事業に係る技術評価書(事前評価)								(経済産業省)	
事業名	ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト			推進課室名	産業機械課 研究開発課				
事業開始・終了(予定)年度	平成27年度・平成31年度			主管課室名	産業機械課				
事業の目的	ロボット活用に係るユーザーニーズ、市場化出口を明確にした上で、特化すべき機能の選択と集中に向けた技術開発を実施する。								
事業概要	別紙記載のとおり。								
平成27年度概算要求額	1,500 (百万円)								
事業目的達成度計測指標及び達成計画	事業目的達成度(事業成果)計測指標			単位	事業開始時(27年度)	中間評価時(29年度)	終了評価時(31年度予定)	事業目的達成時(32年度予定)	
	ロボット産業の市場規模			指標実績値	兆円	0.9	1.5	2.1	2.4
				指標予定値(計画)					
				目的達成度(実績)	% (実績値÷目標値)				
事業所管部局(推進課、主管課)による自己点検・改善状況									
	項目			自己評価	自己評価に関する説明				
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			○	ものづくりや医療・介護現場などの「作業現場」とロボットを製作する「生産現場」を直接結びつけ、その要求水準の高さを活かした本当に必要とされる「使えるロボット」を開発していくために、国が主導して重点分野を策定し国費を投入する必要がある。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○					
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。			○					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	「日本再興戦略」改訂2014において設置するとされているロボット革命実現会議における議論を踏まえ、重点分野に絞った開発を実施する。事業実施にあたってはユーザーニーズも踏まえた技術的目標を定めるとともに、毎年ステージゲート審査を行い補助先の絞り込みを行うなど、事業を効率的に進めることとしている。				
	受益者との負担関係は妥当であるか。			—					
	単位当たりコストの水準は妥当か。			—					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			—					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			—					
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			—						
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			—	ロボット革命実現会議における議論を踏まえ、現場のニーズに合致した「使えるロボット」の開発を実施するため、本事業は有効。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			—					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			—					
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			—					
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名						
自己点検結果・改善方向性	自己点検結果	本事業は、現場で「使える」ロボットの開発・導入に向けて、ロボット革命実現会議における議論を踏まえ、現場ニーズに合致したロボット開発を行うものであり、国費を投入し市場化を加速化させる必要がある。また、毎年ステージゲート審査を実施し補助先の絞り込みを行うことで、開発競争を促し早期の市場化に向け効果的かつ効率的に事業を進めることとしている。							
	自己点検結果を踏まえた改善の方向性	引き続き、適切な執行に向けた点検及び検討を行い、成果挙げるべく取り組んでいく。							
外部有識者(産業構造審議会評価WG)の所見【技術評価】									
<p><事業の必要性及びアウトカムについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を絞り込み明確にして進めること。 ・これまで実施してきた他の数多くのロボット開発プロジェクトも踏まえ、これらで蓄積した知見を生かしつつ、本プロジェクトの位置づけを明確にして取り組むこと。 ・低価格化に伴う新興国との競争なども視野に入れ、産業政策面からの戦略を検討して進めること。 <p><アウトカムに至るまでの戦略について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット革命実現会議等を通じて、現場ニーズを把握しつつ、実用化に向けた規制緩和等や導入普及の方策などをしっかり検討すること。 ・ステージゲートによる絞り込みを実施すること。 									
外部有識者(産業構造審議会評価WG)の所見を踏まえた改善点等									
<p>これまでのロボット開発プロジェクトも踏まえ、従来の技術シーズに基づく研究開発ではなく、「ロボット革命実現会議」及び関係省庁間でユーザー側のニーズを踏まえた重点分野を議論し、ロボット活用に係るユーザーニーズ、市場化出口を明確にした上で、特化すべき機能の選択と集中に向けた目標を絞り込み技術開発を実施する。また、毎年度ステージゲート審査を行うことで、補助事業の成果の検証・絞り込みを行い、オープンな開発競争を促進する。</p> <p>さらに、産業政策面の観点から、「ロボット革命実現会議」において、技術開発だけでなく、規制改革、標準化等の具体策を盛り込んだ「5カ年計画」を策定することとしている。</p>									

ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト

平成27年度概算要求額 15.0億円（新規）
【うち優先課題推進枠15.0億円】

製造産業局 産業機械課
03-3501-1691
産業技術環境局 研究開発課
03-3501-9221

事業の内容

事業の概要・目的

- ロボット活用に係るユーザーニーズ、市場化出口を明確にした上で、特化すべき機能の選択と集中に向けた技術開発を実施し、ユーザーニーズを踏まえつつ、当該機能においては圧倒的優位性を有するロボットを開発します。
- ロボット革命実現会議及び関係省庁間で重点分野を議論し、その上で、重点分野のユーザーニーズも踏まえた技術的目標を定め、技術開発をしていきます。また、毎年ステージゲートを設け、オープンな開発競争を実施します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

本事業の対象分野例：ものづくり、サービス

食品加工



生産現場



宿泊業



レスキュー



消防

ロボット革命実現会議



- ・重点分野の策定と機能を絞った研究開発
- ・ステージゲート制により開発競争の促進

災害対応



国交・経産・
消防・文科

農業



農水

インフラ管理



国交・経産

介護現場



厚労・経産